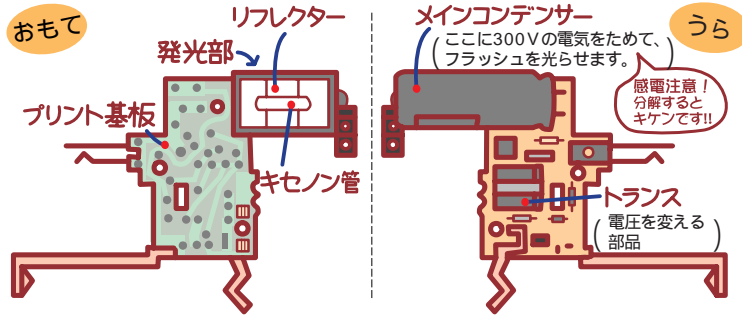


ど〜やって作るの？



使い切りカメラのストロボは、
 ・リサイクル
 ・リユース
 されています。

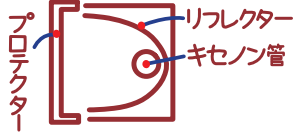
使い切りカメラのストロボ構造図



組み立て前に回路設計および配光設計がされています。

- ① リフレクターにキセノン管を挿入
- ② エアブローし、中のゴミをとった後、ケースを組付

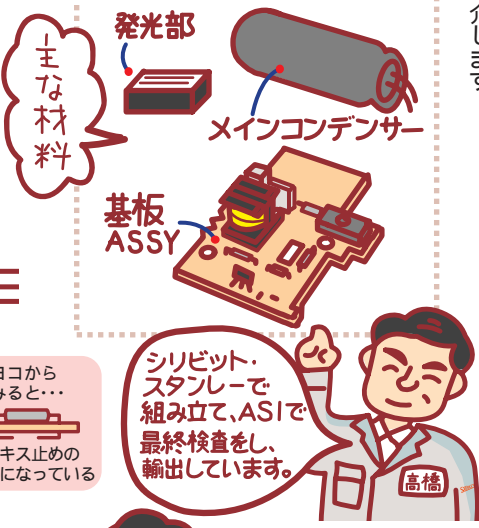
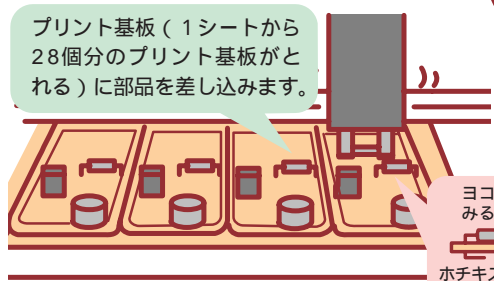
【発光部の断面図】



ど〜やって組み立てるの？

① インサーター搭載

プリント基板に部品をインサーターマシンで自動搭載します。



20年以上も生産している「ストロボ」。回路設計技術は高く評価され、なんと使い切りカメラの生産高は世界一！今回はその「ストロボ(使い切りカメラ)」の作り方を紹介します。

② 手搭載

自動搭載できない部品を1つずつ手作業で搭載します。

③ プリント基板を自動ハンダ付け

部品を搭載したウラ面にフラックスをぬり、ハンダ付けします。

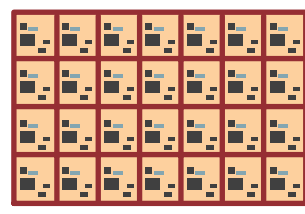
* フラックス⇒ハンダをつけやすくするための溶液



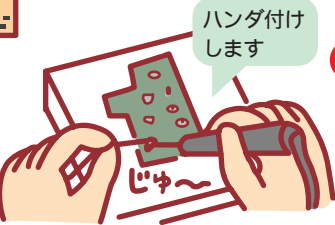
ストロボ (使い切りカメラ)

④ プリント基板分割

プリント基板をプレス機にかけて28個に分割します。



⑤ プリント基板に発光部とその他の部品(メインコンデンサー、シンクロスイッチ、電池接片など)を手作業で組み付けます。

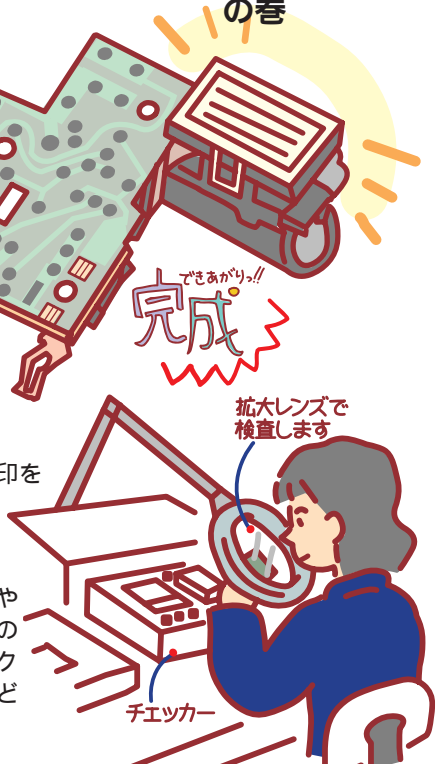


⑦ 発光検査

チェッカーで発光検査を行い、検査済印を押します。

⑥ 外観検査

余分なハンダや未ハンダなどの不良、プロテクターのキズなど検査します。



完成